

学校教育目標 新しい知を拓き、ともに生きる豊かな社会を創るため、主体的に学ぶ、人間性豊かな「南古谷っ子」を育成する
目指す学校像 みんなが みんなを 大切にする学校
南古谷小学校5つのじまん あいさつ ことば なかよし 読書 歌声

川越市立南古谷小学校



学校だより

なのはな

かしこく ゆたかに たくましく

令和6年10月31日発行

実りの秋に思うこと

校長 馬場 雅史

今月初旬、6年生と共に訪れた日光では、現在紅葉の見頃を迎えているそうです。同様に、身近な南古谷地域の木々の葉も色付いてきており、益々秋を感じられるようになってまいりました。木々の葉の彩りを楽しむような気持ちの余裕をもちたいと常々思っておりますが、なかなか難しく感じています。しかしながら、自分の好きなこと、やってみたいことにじっくりと取り組むには良い時季となってまいりました。我々大人こそ心身が充実する秋にしたいものです。

学校では、明日の校内音楽発表会に向けて、どの学級も最後の調整に入っています。音楽室で、教室で、体育館ですばらしい音が響いています。「練習は本番のように。」のかけ声のもと、心のこもった練習をしている学年も見られました。あちこちの教室等を訪問しながら、私は常にワクワクしています。子供たちや先生方に改めて感謝の限りです。また、校内音楽発表会は、今まで練習してきた成果を保護者の皆様に見ていただくチャンスと捉えています。我々職員が見ることのできない家庭でのお子様の頑張りもあったことと思います。是非、保護者の皆様には、本番の緊張を感じながら一生懸命取り組むお子様に称賛の拍手と労いのお言葉を送っていただきたく思います。そして、本校の5つのじまんに『歌声』が入っています。合唱や合奏を問わず、音を感じ、表現し、楽しむことのできる学校でありたいと思っています。頑張る子供たち全員を応援してほしいです。

ところで、文化庁が令和6年9月17日、「月に1冊も本を読まない人が6割超にのぼる」とする2023年度の「国語に関する世論調査」の結果を公表しました。同じ調査項目が設けられた2008年度から調査を始めて以降では最も多く、初めて5割を超えたそうです。スマートフォンやSNSが普及し、読書に充てる時間が取って代わられていることが原因とみられています。年代別にみると、10代は「1冊も読まない」が66.3%で各年代を通じて最も多いという結果でした。ただ、いずれの年代でも「1冊も読まない」が6割を超えており、全世代で本離れが進んでいると捉えられそうです。読書の捉え方は人それぞれ様々でしょうが、私個人としては、大きな意味でインプットと捉えています。立場的にアウトプットの機会が多く、常に何かを消費している思いにさいなまれます。そのような捉えから心の貯金、知識の蓄えをしていると思っています。時に、日本語の奥深さや使い方に驚くこともあり、そのような出会いの機会に嬉しくもなります。夏目漱石の「草枕」の冒頭に「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。」という文があります。智と情の管理を行う者として、この言葉の奥深さを大事にしています。

さて、埼玉県では11月1日を「彩の国教育の日」、11月1日から7日までを「彩の国教育週間」としています。その主旨は、学校と家庭、地域の皆様とが力を合わせ「心豊かな、力のある、元気な子供」の育成を図ることにあります。音楽や読書を通して家族と関わり、地域のイベント等を通じて人間関係を広げていく。子供たちが実りを実感できる秋にしていきたいです。

